

篠崎第五小学校応援団実践報告書

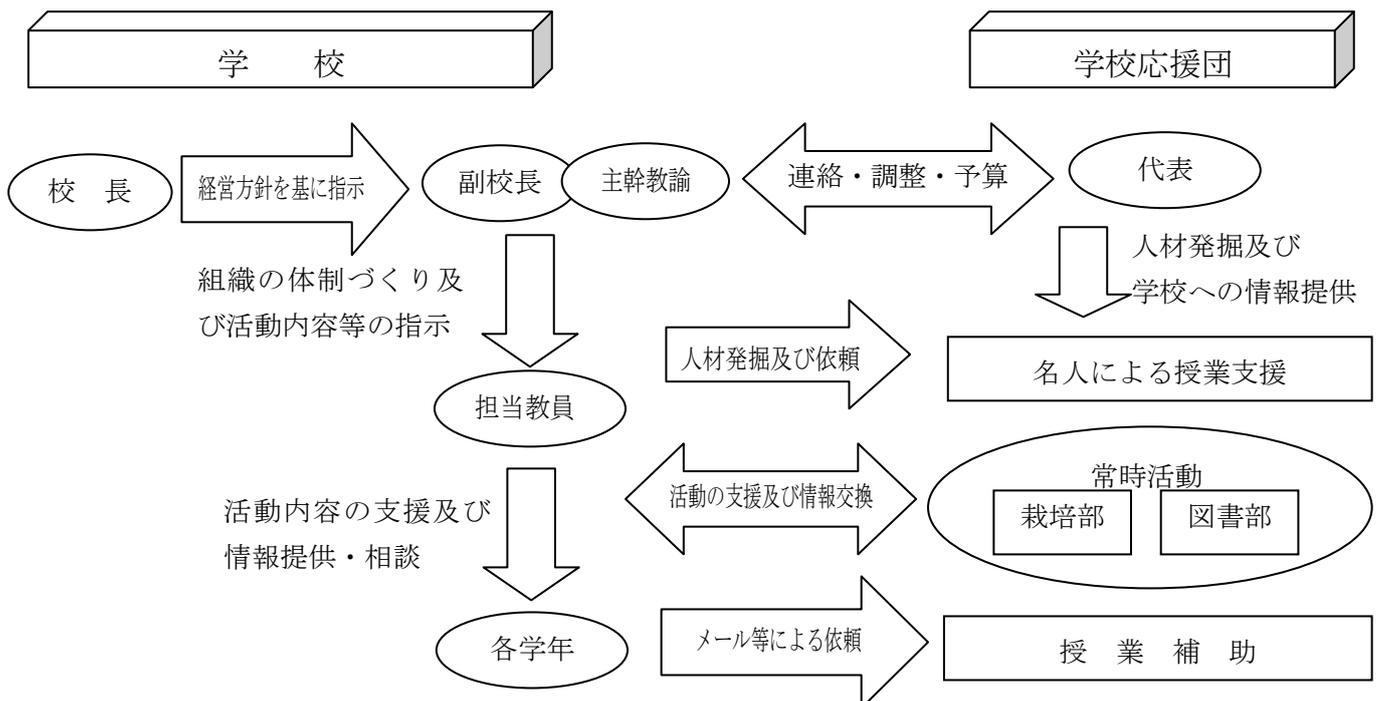
1 校長及び代表者氏名

学校長 篠崎第五小学校長 福井 和子
 代表 学校応援団 代表 小村 丈文

2 今年度の活動内容

応援団の種類	活動内容
栽培活動	年間を通して、裏庭の整備及び草取り等の活動。 田んぼの田植えから収穫までの活動補助。 筍堀りの補助。 各学年において、栽培活動の支援。
図書	年間を通して、週1回の各学級における読み聞かせ。(毎週金曜日) 新規図書購入について、図書館司書教諭と相談し購入。 図書室内の本の修繕や本棚の整理。 図書室内外の、環境整備。
学習支援	生活科、家庭科、図画工作科などの学習支援。 展覧会に向けての作業等の補助。 席書会の助言及び補助。
行事支援	登下校の見回りパトロール。 学期1回のあいさつ運動の推進。
体験的活動	ヤゴ取り体験。田植え体験。稲刈り体験。凧揚げ体験。 戦争体験者の語り部の会。

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

- 栽培部が年間を通して定期的に活動したことで、様々な種類の農作物の栽培を行うことができた。
- 図書部が、年間を通して定期的に活動し、週1回の児童への読み聞かせを行ったことで、児童は読書への興味・関心が高まった。
- 学習支援部が、様々な教科等への学習を支援したことで、個への支援が充実することができた。
- 行事支援部が、各学年の体験的活動を行う際、様々な分野の名人と呼ばれる講師を招いたことで、活動が充実するとともに、人材バンクへの登録を行うことができ、継続しての活動へつなげることができた。

<課題>

- 保護者全員が学校応援団の一員となることを4月の保護者会で伝えたが、その認識が十分に浸透しなかった。
- 一部のボランティアの人に頼ってしまうことがあり、活動に制限ができてしまうことがあった。
- 今年度は、人材発掘を目指して保護者、地域へ呼び掛けたが、新たな人材を十分に発掘することができなかった。
- 保護者への学習協力を電子メールで行う計画を立てたが、電子メールを十分に活用できず、一部の保護者の参加にとどまってしまった。

5 代表より

今年度ボランティアの参加数を増やすために行ったことは、年度が変わっても継続して活動ができるよう登録された方を自動更新制にしました。また、卒業学年の保護者には、継続しての参加をお願いしました。また、外部に向けての情報発信としてインターネット上のfacebook（フェイスブック）ページで学校応援団の活動を作成し公開しました。

今後の課題としては、卒業生保護者や地域の方々など、外部の方々にも参加してもらうには、学校側の受け入れ体制も十分でないと感じました。学校応援団の趣旨や活動内容については、学校の先生方をはじめ、保護者や地域の方々にも、もっと理解してもらう必要があると思いました。

今後も学校、PTAとの連携をより強めて、学校応援団を発展させていければと思っています。

6 学校長より

今年度の活動でよかったことは、年度初めに、学校応援団代表の小村 丈文様、環境教育アドバイザーの奥津 久男様と、それぞれの学年の担任が、1年間を通してどのような活動をしていきたいかということについて十分な話し合いができたことです。

このようなことを行うことによって、学年としての取り組みが明確になり、代表や環境教育アドバイザーからの的確なアドバイスを受けたり、応援団としての支援の方法を考えていただいたりしました。また、連絡を密に取って、充実した活動を展開することができました。

来年度も、学校応援団の皆様の力をお借りして、子供たちの教育活動をさらによりよいものにしていきたいと考えています。これからもご支援・ご協力のほどお願いいたします。